

関門ビル

パッと見た限りでは、かつて海運会社関門汽船本社があったこの目立たない建築物はただのオフィスビルのように思われる。しかし、細かな設計上の衣装により、この町の歴史的建築物の中でもこの関門ビルが異彩を放つものとなっている。

挑戦的な建築

関門ビルは、昭和期（1926-1989）の1931年に建てられた。旧英国領事館や秋田商会ビルなど、近隣の歴史的建造物の中で、濃いグレーの外観とブロック状の側面は際立っている。

新古典主義的な建築様式の古い建築群とは対照的に、関門ビルは近代的なものを徹底的に取り入れたように思われる。秋田商会ビルと同じく鉄筋コンクリート造だが、そのデザインは素材の持つ創造的な表現の可能性を活かしている。こうした傾向は、メインエントランスの上の切り落としの高さいっぱい広がる窓（レンガ造りでは不可能なデザイン）に始まり、建物の左右にある装飾的な突起も含む。エントランスの左側には竹のようなフェイクの柱が立ち、右側には小さな舷窓があり、この建物が海運会社のオフィスだったことをほのめかしている。

よく見ると、窓の形や大きさが異なり、左右非対称であることがわかるし、突起はいくらも無秩序に見える。屋根近くの八角形の窓の上の、一見何の目的もなさそうなブロンズのパイプや、正面玄関の右側にある崩れかけたセラミックの動物の顔など、不思議な特徴もある。